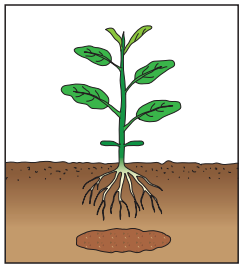
施肥のポイント　時期や野菜の種類に合わせて適切な施肥を

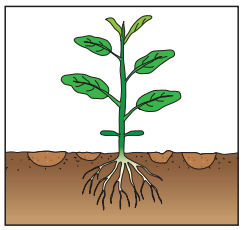
野菜の生育に必要な肥料成分は、天然の土壌にほとんど含まれていません。
良い野菜を作るためには土づくりを行うと共に適切な施肥を行い、生育を促す必要があります。

1. 肥料の与え方



①元肥

元肥は**植え付け7日前ごろ**に施します。発芽したらすぐに肥料が吸収できるよう、また、植え付け後に与えることのできない根の下層部に施すようにします。



②追肥

適量の肥料を、根がすぐ吸収しやすいところに与えます。近すぎると根への肥料濃度障害が出やすいので、あらかじめ根の張っているところを確かめて、**根の先端から3～5㎝離れたところ**に施しましょう。

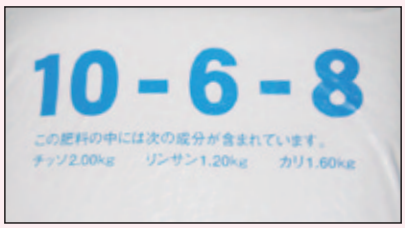
畝の側面に軽くくわで溝を作り、底に肥料を撒いて、覆土します。

2. 追肥のポイント

茎や葉を育てる**葉茎菜類**（白菜、キャベツ、ねぎなど）は生育の進み具合、葉色を目安に、15～20日おきに2～3回、大きさに応じて与えるようにします。

果菜類は種類によって性質が異なり、キュウリ、ナス、インゲンなど実止まりしやすいものは、生育が進み着果数が増えれば、それに応じて増量しながら与えます。トマト、スイカ、カボチャなどは、果実が確実に着果し肥大するのを見届けてから追肥することが大切です。一番果をゴルフボール大に肥大させてから1回目の追肥をしましょう。

3. 配合成分のタイプと使い分け



畑への窒素(N)、リン酸(P)、カリ(K)の各成分の補給は野菜の生育に重要で、3成分を配合した複合肥料（化成肥料といわれる粒状肥料）が適しています。

肥料の成分によって働きが違うので肥料の表示を確認して野菜の種類にあった肥料を与えましょう。

葉茎菜類	キャベツ、白菜、ホウレンソウなど	**N**－P－K
果 菜 類	トマト、ナス、カボチャなど	**N－P－K**
根 菜 類	ダイコン、ニンジン、サツマイモなど	N－P－**K**

※窒素(N)　リン酸(P)　カリ(K)　のうち、太字は成分の多いもの

栽培について

営農指導員、最寄りの購買店舗職員にお尋ねください。
種・肥料・農薬などの生産資材のお買い求めは最寄りのJA購買店舗をご利用ください。